

# 買い物難民に救いの手 門真市の取り組み

近年、郊外型大型店の進出が相次ぎ、地域の

住民の日常生活を支えてきた商店街や食料品店は競争に勝てず激減。高齢者を中心に「買い物難民」（食料品の購入や飲食などに不便や困難を感じる方々の

事）が、社会問題となっている。  
門真市では、4月19日から毎週火曜日の午前10時から正午まで市営門真住宅で移動販売が行われている。

売してもらってよかったと、笑顔も輝く。



開放的な気分で購入物が楽しい

京阪ホールディングス株式会社とスーパーマーケット「フレスト」を運営する京阪ザ・ストアが協力して移動販売の実証実験がスタートした。販売初日は、新鮮な野菜や果物、かさばるトイレットペーパーや持ち重りする調味料などを求めて、約70人が買ひ物。青空の下で「自分の近くで販

京阪ホールディングスの担当者は、「住民の皆様の声をお聞きしながら、移動販売をより良いものにしていきたい」と話す。地元自治会長は「今後とも本音で話し合いながら京阪と門真市と連携し、よりよい活動を目指す」と意気込む。



買ひ物を通して地域コミュニティの輪が広がる